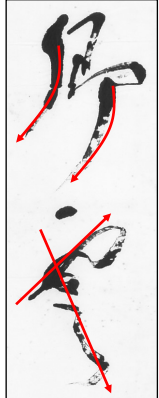


所を争い後色争い迎老
鶴情深語未休

卿雲氣煖花争迎老
鶴情深語未休

所を争い後色争い迎老
鶴情深語未休



この書き出しは左下になびいているような感じのする字形で、特異なものになっている。この左下への払いにより行自体も左への動きが生まれているが「雲」の雨冠を極端に右上がりにしてうまく対応している。次の「氣」も左に傾けて平静に戻している。



四文字目で早くも墨継ぎをしている。傾いた字形の並ぶ書き出しから、少し心を落ち着かせるかのようにゆったりとした雰囲気表現している。左下から右上への横画の角度を揃えて一体感を表現しているのは注目に値する。まるでここから新しく書き始めたかのごとく見える。気分一新だ。



一行目の末尾で、二行目への繋がりを意識した表現になっている。前の字の「争」の最終画の流れを受けた「迎」の字形と、さらにその大きいうねりを受けた「老」への流れるような繋がりは美しく、心が洗われるような感動を覚える。また、左側の空間も懐の広さを感じさせている。



二行目の頭の部分だが、右の行の動きに張り合うだけの勢いのある「鶴」の字の存在感は素晴らしい。また、「情」の字の墨継ぎは、その勢いを受け継いだものになっていて、気分一新というものではないことに注意したい。「情」の縦長の字形は味わい深い。



作品全体を見ながら収めているのだが、「休」の字形は情感があり、余韻を感じさせるものがある。最後になっての目立つような字形は避けるべきだが、ここでは全体のバランス感覚も含めた印象深い表現が際立っている。

今月の課題は、連綿のな
い行草体で、字形による
行の流れを中心とした表
現になっている。もちろ
ん筆使いの変化による見
事な線質の味わいは見逃
せないが、文字の傾きや
字形の変化による文字の
繋がりがとても美しく、
ゆったりとした川の流れ
を感じさせる心地良さが
ある。縦画の繋がりが横
画の角度や長さの変化に
注目して、字形による表
現の素晴らしさを理解し
て書いてみてほしい。